

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 4年 2月 25日

事業所名 おひさまはうす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		未就学のお子さんにとっては十分なスペースを確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	2	1	配置数は適切である。	今後グループでの活動も視野に入れ、人数を調整していった。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3		子供たちの特性に応じたスペースや安心グッズを配慮し、使いやすい興味持って過せるように職員間で共有するよに話し合いを重ねて準備設定するように日々意識している。	放課後等デイサービス(小1～高3までの)利用の方が多く、机や活動場所で使用する道具や家具の大きさが合わないことがある。その点に関しては可動式のものにするとか、台を設けるなどして今後も対応していきたいです。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	1	1	気温や過ごしやすい環境になるよう気温や感覚を大切にしながら冷暖房器具やかべつなどの支度整えている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3		毎日事前の打ち合わせ振り返り非常勤も参加させてもらっている	スタッフ全員同席して共通理解をする場に関しては月に1回のスタッフPMのみならず、日々変更になる部分についてはスタッフによって若干理解に誤差があるときがある。記録の仕方を整理し、PDCAサイクルがうまく回るような工夫を検討する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3		アンケートだけでなく、日々のやり取りの中でもみなさまのニーズの確認を引き続き行っていきたい。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3		毎年、玄関の掲示板とHPIに掲載している。	毎年HPIに掲載、玄関の掲示板に張り出すなどして公開している。ただ、周知が足りない可能性があるため徹底していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	紙面での評価を行っているかは分からないが民生委員・保健福祉課・嶺南教育部etc意見を参考にさせてもらっている。	その他、保護者の方の視点も入れていくようにしているが、書面で残すようなやり方を今後検討していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		非常勤にも研修費の補助を出していただいて自閉症eサービスなどのズーム研修を何回か受ける事ができた。内部研修も充実している	職員の研修規定を明確にし、自閉症eサービスの研修や、自立支援協議会が行う研修などにも参加してもらっている。今後も資質向上にむけて頑張りしたい。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3		毎回保護者の方も同席していただく活動を実施しているため、毎回アセスメントと聞き取りをしている。	今後も現状できている対応を継続していくことができるようにする。	
11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		現状、標準化されたアセスメントツールは活用できていない。	現在は簡易の評価ツール(自閉症eサービスが開発した評価キット)を使用している。今後、vinelandを活用できるよう研修などにも参加していきたい。	
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	1	まだ未就学であることから机上での課題などが中心で、地域に出て活動するまでの準備的な活動がメインになっています。今後、家族支援や地域活動についてもニーズに合わせて取り組んでいきたいと思っています。		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3		毎回支援計画を確認し、保護者の方のニーズも聞き取りながら支援している。	説明不足が今回のアンケートによってわかったため、今後は毎回支援計画の何を意識して活動してもらうのか説明していきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	3		非常勤も参加させてもらっている	未就学のうちは比較的ニーズが同じ傾向にある(例:身辺自立、コミュニケーションなど)ため、これまで子育てを経験してきたスタッフの意見も借りながら実施していきたい。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		・特性を十分把握した上で興味を示してくれたり意欲的に参加し楽しめるプログラムを職員それぞれ立案し変化やコミュニケーションも感じられる内容を行っている	今後もお子さんの状況やご家族のニーズを聞き取りながら実践していきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	3		現状、児童発達支援は保護者同席の療育が中心になっている。	グループ利用のニーズも高いため、今後検討していきたい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		・事前打ち合わせで常に共通理解を図っているため非常勤でも同一歩調で取り組める ・直前に支援した上で内容を打合せの中で具体的に話し合い共有しようと職員一人一人の意識を確認し合える時間を何より重要だと考えてるので必ず対策を考えて共有する時間に行っている。	今後も今の取り組みを継続していくことができるようにする。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3		報告で終わらず今後の対応について話をしている。	かならず実施している。ただ、熱心に話をするあまり、勤務時間が伸びてしまうことがあるため、決められた時間枠の中で要点を抑えてやりとりできるような工夫を検討していきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		毎回、活動記録表を記入し、どんな様子で課題に取り組んでいるのか記録を残している。	評価の仕方に若干の差があるように感じる(自立してできたのか、少し手伝ったのかなど)。この共通理解を図ることができるようにしていきたい。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3		定期的な面談だけでなく、毎回保護者の方が同席されているため、毎月振り返りを行っている。	今の取り組みを継続していきたい。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		基本的には管理職が対応しているが、ケースに応じて担当職員も同席し詳細を話すことができるようにしている。	現在、管理職が全利用者の状況を把握してやりとりしている。今後については、現場スタッフも積極的に所外の支援関係者とやり取りすることで自身の理解が深まると思うので継続して様々なスタッフが参加できるようにしていきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	1	高浜町の保健福祉課とかなり密な連携が取れている。他の市町についてはケースによって対応がまちまち。	高浜町については今の連携を継続する。他市町については、必要に応じて自立支援協議会等で連携のあり方について協議していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	2	該当者なし	今後ニーズがあればそれに答えることができるような準備を今のうちからしておきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	2	該当者なし	今後ニーズがあればそれに答えることができるような準備を今のうちからしておきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	1	高浜町内については移行支援の課題を町福祉課と共有しており、今後の情報共有のやり方について協議していく予定。他市町についてはあまりやり取りできていない現状がある。	市町によって対応に違いがあるのはある程度は仕方ないことだと思うが、できる限り密な連携・情報共有をしていくことができるようケースに応じた臨機応変な対応をしていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	2	相談支援事業所主催の担当者会議でできる限りの連携を図っている。ただ、学校側がどうしても新年度にならないと担任を公表できない縛りがあるためやりにくさを感じることもある。	できる限りの工夫を行っていききたいが、制度上難しい部分もあると感じている。ただ、それがお子さんの支援の差として現れないようできる限りの工夫を行っていききたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	特に専門職(作業療法士、言語聴覚士)の方からの助言を聞くことができ、日々の支援の中に反映できているように感じる。	現状できていることを今後も継続していくことができるようにする。

	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3	コロナ禍の為実施不可	ただし、現在利用されているお子さんに関しては全員地域の保育所等に通所されている方ばかりなので、機会としてあえて設定する必要がない。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	2	児童関係事業所の連絡会の相談役になっている。	福井県嶺南の協議会はかなり連携を密に行っている。今後も積極的に参加しながら嶺南の障害福祉を充実させていきたい。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		3		基本的に保護者同席での活動のため、毎回の活動が成長や課題把握の場になっている。今後も現在の状況を維持できるようにしていきたい。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	2	研修等で聞く等していますが意識してそれを使った対応ができていくか分かりません	月に1回程度、保護者交流会を開催しており、そこでは家庭での対応なども含めた研修形式の会と、息抜き的な場を組み合わせ実施している。ただ、平日に開催するとお仕事をされている親御さんの参加が難しく、逆に休日に開催するとお子さんを誰が見るのが課題になっております。できる限りたくさん保護者のみなさまにご参加していただくことができるよう検討していきたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		2	1	契約時やもし規定に変更があれば都度説明している。	報酬改定の際には各利用者へ個別に説明を行った。また、普段の利用では発生しないがその月だけ発生する金額(例:家庭連携加算など)がある場合にも個別に説明している。今後も継続していきたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		3		きちんと行っているつもりではあったが、今回のアンケートの結果から説明が足りていないことがわかった。	今後については、毎回の活動の中で支援計画のどの部分にあたる目標に関して、どのような具体的な手立てで対応していくのかなどを丁寧に説明していきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		2	1	適切な助言ができていないか不安	今後もスタッフが適切な助言をできるような機会(研修や実践の場)を設定し、子どもたちやご家族のニーズにお答えできるようにしたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3		スタッフが保護者交流会(サニー)を開所し有効に運営されている	現在、月に1回保護者交流会を実施し先輩保護者の方からのお話を聞くことができるような枠組みはありますが、明確なプログラムとしては実施できていません。今後検討していきたいと思っております。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		2	1	定期、臨時の面談以外日頃から迎への保護者の声を聴き寄り添う姿勢は素晴らしいと思う	できる限りその場でお答えできるように準備している。またすぐに答えることができない場合にも後日メールなどで情報提供できるようにしている。今後も継続していきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		3		年に一回行ってます	今年度から事業所に掲示板を設け、保護者の方が迎え時に活動の様子を見ていただくことができるようにしている。今後も様々な工夫をしていきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している		3		子供家族関係等個人情報や施設内のみでの閲覧記録を含め職員の間で共有に努めている	当然ではあるが、個人情報を保管している棚にはカギを掛け、かならず施錠している。今後も今の対応を検討していきたい。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		3		お互いの情報が子供の安心できる環境と成長に繋がるように共有することが大切であることを会話の度に伝えるようにしている	必要に応じて、視覚的なやり取りも行っている。こちらの思いやしてほしいことをどう理解してもらうのかばかりでなく、お子さんや保護者の方からも表出しやすくなるような工夫も検討していく必要がある。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3		コロナ禍で対応不可	コロナの感染拡大が落ち着いたら積極的に取り組んでいきたい。
	非	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	1	2	訓練には必ずしも確認できる場所やマニュアルをまとめておいてあり、その時々々の注意点(例:熱中症対策、感染対策、時事事項など)についてはさらに見やすい場所に掲示している。ただ、保護者の方には足りていない	玄関の掲示板をうまく活用していきたい。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		1	2	子供がいる状況では行っていない	現在、年に数回消防署の方に実地指導に来ていただいたり、水消火器を使用した消火訓練なども実施しております。ただ、見える化ができていないと思っておりますので、今後掲示板に記載するなどして現状を確認いただけるような形を検討していきます。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	1	1	・予防接種は確認していない ・てんかん発作時の対応について主治医と連絡を取り職員で周知している	足りていない情報を整理し確認していきたい。	

常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		3	該当者なし	必要になればきちんと対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		3	月一回のスタッフMでも再度確認している。振り返りの時間にその都度共有。 内部研修の際に再度報告してもらい対応について職員の周知徹底を図っている。	徹底して行っている。今後も今の対応を継続していきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		3	今年度も1回、全職員向けに虐待防止研修を行った。	委員会の義務化もされることなので、今後もより具体的な研修等を実施できるようにしていきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		3	対応については内部研修で共通理解を図っている。ただ現状は必要ない。	徹底して行っている。身体拘束の計画書も必要に応じて記載している方もいるが、一番大切なのは普段から情緒的に安定して過ごすことができるようになることが一番大切なことであるため、こども徹底していきたい。